伝統に生きる

―あらかわの工芸技術―

勘亭流文字

上野庄吉（うえの しょうきち）
（号 二代目 荒井 三礼）

（平成２年度作品）
16㎜映画・ビデオ
カラー・18分

プロフィール

住所、荒川区荒川１－38－３

大正４年（1915）、東京生まれ。

平成元年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

初代・荒井三礼の長男として浅草で生まれ、父親の手ほどきで15歳のときから芝居小屋の番付や看板を書くようになる。

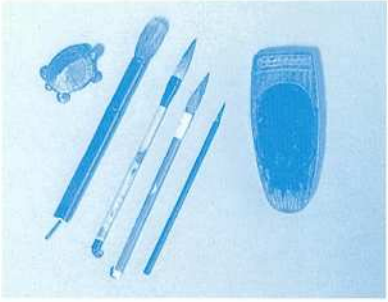
昭和７年（1932）、二代目荒井三礼を襲名。歌舞伎文字勘亭流の技術と共に歩み続けている。

今、勘亭流文字はデザイン文字として人気があるが、「単なるデザイン文字だけでなく、私たちの生活に結びついた文字として愛されるようになれば……」と、勘亭流の教室を開いて、情熱を筆に託して後進の指導にあたっている。

企画　東京都荒川区教育委員会・製作　毎日映画社

用具・工具

筆、硯、墨、文鎮。



筆　法　―特色―

(1)　内から内へと筆を入れ、曲がり角にくると筆を抜く。
(2)　抜くと同時に筆を返す。四角のなかにスキがないようにする。
(3)　表毛を返したら、裏毛がなかに入ってくる。

ナル.

勘亭流文字

歌舞伎文字ともいわれる。

ビラ文字、相撲文字、千社札文字、寄席文字などと同様に、独特の書体をもった文字である。

これらは一般に、「江戸文字」とよばれ、その母体は、江戸時代に隆盛をきわめた御家流（青蓮院流ともいう）で、和風の書道の一派であった。

安永８年（1779）、岡崎屋勘六（長谷川勘六）が、鳥居清長の春狂言絵看板に「御贔屓年々曽我」の大名題を揮豪したところ、その文字が江戸市民の喝采を博したので、勘六の俳号「勘亭」の名をとって「勘亭流」とよぶようになった。

勘亭流文字の筆法には、一筆書きと、塗り文字と大きく分けて二通りある。

塗り文字とは、芯を書いて、まわりを塗ることで、ポスターやビラ等の外題に用いる筆法である。脇の飾り文字は一筆書きである。

利用される方は……☎3891−4349

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。
貸し出し期間は、１回５日間です。お気軽にご利用ください。
※16ミリ映画は、団供登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。